

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2015年7月8日

今月のトピックス 「脳血管疾患は三大疾病ではない？」

筆者は主に金融資産運用設計が専門のファイナンシャルプランナー（FP）ですが、一通りお金周り全般に対応できることから、資産運用以外のセミナー依頼なども時にお受けしています。世相を反映してか、介護保険や相続に関する依頼が少しずつ増えている気がします。実際、2013年に父親、2014年に義父が亡くなったため、介護こそ経験していないものの、相続は身をもって経験しました。母親、義母は共に高齢かつ実家に1人住まいであることから、毎週のように実家に帰っているため、勝手に「要支援0.5」と言っています（実際の要支援は1からです）。そんな経験があることも依頼が増えている背景かもしれませんが、介護に関しては予想以上に経験している人が多いことにビックリしています。50代という年齢からして致し方ない面はあるものの、介護のために仕事を辞めて実家に帰ったなどという話も頻繁に聞かれるようになってきました。

介護が増えた理由は「超高齢化」が急速に進んだことと言われますが、もっと根本的な原因があると思い、セミナーついでに調べてみたところ意外なことが分かりました。図は1995年（平成7年）から3年ごとに見た「死亡総数に占める割合からみた死因順位」を抜粋したものです。日本人の死亡順位ワースト3と言われる、悪性新生物（ガン）・心疾患（代表的なものは心筋梗塞）・脳血管疾患（代表的なものは脳卒中）のいわゆる三大疾病。図をみると、ガン、心疾患の死因割合は、年によって大きな変動が見られませんが、脳血管疾患

死亡総数に占める割合からみた死因順位

	1995年 (平成7年)	1998年 (平成10年)	2001年 (平成13年)	2004年 (平成16年)	2007年 (平成19年)	2010年 (平成22年)	2013年 (平成25年)
1 悪性新生物位	28.5%	30.3%	31.0%	31.1%	30.4%	29.5%	28.8%
2 脳血管疾患位	15.9%	15.3%	15.3%	15.5%	15.8%	15.8%	15.5%
3 心疾患位	15.1%	脳血管疾患 14.7%	脳血管疾患 13.6%	脳血管疾患 12.5%	脳血管疾患 11.5%	脳血管疾患 10.3%	肺炎 9.7%
4 肺炎位	8.6%	肺炎 8.5%	肺炎 8.8%	肺炎 9.3%	肺炎 9.9%	肺炎 9.9%	脳血管疾患 9.3%
5 不慮の事故位	4.9%	不慮の事故 4.2%	不慮の事故 4.1%	不慮の事故 3.7%	不慮の事故 3.4%	老衰 3.8%	老衰 5.5%

※出所：厚生労働省「人口動態統計(確定値)」より

患だけは大きく減少しており、2013年（平成25年）の死因では第4位となったのです。言葉は悪いですが、平たく言えば脳血管疾患では死ななくなっているのです。医学の進歩などによるものですが、脳血管疾患などの脳の病気は第3位の肺炎などと比較すると後遺症が残るケースが多いと言われているのです。

事実、介護になった理由の男性のトップは脳血管疾患なのです。ちなみに、女性は脳血管疾患が介護になる理由の第5位で、1位は認知症です。また、女性は男性と比較して骨折・転倒が理由で介護になる人が多いのですが、高齢になると骨粗しょう症になるケースが多いことが要因と言われています。ご存じの通り、介護費用を抑制することなどを背景に、介護は施設介護から在宅介護へと舵を切っています。在宅介護になれば、誰かが要介護者の世話をすることになります。夫婦であればどちらかが世話をすることができるのですが（老老介護等の問題は除く）、1人身になった後は、誰が世話をするのが差し迫った問題として私たちに浮上してくるのです。他人事ではない「介護」。私たちのライフスタイルを一変させる可能性があることから、頭の片隅には入れておきたいものです。